



所在地.....山形県東根市板垣大通り8
 面積.....約230㎡
 ユニット.....6台（うち3台は歯科衛生士用）
 スタッフ.....歯科医師2名、歯科衛生士4名、受付1名、歯科助手1名、
 歯科技工士2名
 患者数.....1日約43名
 診療時間.....9：00～12：30、14：30～17：30
 休診日.....土曜（午後）、日曜

絶え間ない研鑽を故郷に還元し、揺るぎない信頼を得る

サクランボの産地として知られる山形県東根市に、「佐藤歯科医院 ラ・フランスオフィス」があります。診療の傍ら、全国で講演活動を行うなど精力的に活動をされている、院長の佐藤勝史先生にうかがいました。

よい結果を積み重ね、信頼を得る

●なぜこちらで開業されたのですか？

「両親は車で2～3分の場所に住んでいます。父は内科医で、私は長男ということもあり、実家の近くで開業しました。患者層は平均的で、子どもからお年寄りまで来院されます。比較的保険診療を望まれる方が多いですね。山形県全体では人口が減少していますが、東根市では増加しています。農家の方に話をうかがうと、サクランボは高く売れるため、収入的にはよいらしいのですが、子どもたちは農家を嫌がって後継ぎがない。後継ぎがないと宅地になり、若い夫婦が家を建て



Katsushi SATO

佐藤勝史

院長の佐藤勝史先生は、山形県生まれ。1989年、昭和大学歯学部を卒業。1998年、現在地で開業

ることで、人口が増えているそうです」

●診療で力を入れていることは何でしょうか。

「予防、ペリオ、ペリオベースのパーシャルデンチャー、フルデンチャーです。しかし、開業当初はなかなかメンテナンスに移行してもらえませんでした。主訴を治して、『ぜひお口全体を検査しましょう』とお話しして、予約をとっていたらよいかをお話する。そうした取り組みをコツコツ続けていくことで、徐々にメンテナンスに通う方が増えていきました」

●パーシャルデンチャーやフルデンチャーが多いのは土地柄も影響していますか？

「私がデンチャーを得意としていることもあり、他院からの紹介されるケースも多いです。開業前は東京に在住していて、デンチャーは、染谷成一郎先生に教わりましたが、その当時は作ったことも調整したこともありませんでした。35歳で地元に戻ってきたら、フルデンチャーの注文がたくさんくるので、昔のノートを引っ張り出して勉強し直したことを覚えています。その後、阿部二郎先生の会で、下顎総義歯の吸着を学びました」

●患者さんと信頼関係を築く秘訣は何でしょうか？

「よい治療結果を出すことが大きいと思います。」



▲佐藤歯科医院のみなさん

よく噛めるようになった、調整してもらったら入れ歯が邪魔にならなくなったといったことを経験してもらうことが大きいです。患者さんが満足してくれることが、“佐藤歯科医院に任せれば間違いない”という信頼関係になるのだと思います」

勉強会と朝礼で情報を共有

●院内勉強会などは行っているのですか？

「医院全体での情報の共有が必要だと考えています。院長と歯科衛生士で言うことが違うとか、あの歯科衛生士とこの歯科衛生士で言っていることが違うというのは不信感を生みます。そこで、毎週月曜日の昼休み後に勉強会を行っています。歯科技工士も歯科助手も、一緒に気がついたことを調べて発表します。金曜日のお昼休み後も、担当患者の資料を出し合い、治療方針の検討会をスタッフ全員で行います」

●歯科衛生士に身につけてほしいのはどのようなことですか？

「朝礼で今週の目標を決めますが、いちばん多い目標は“返事と復唱”です。“あなたの言っていることを確認しますよ”という意味で、必ず復唱します。単純なことのようですが、実行するのはなかなか難しいので、この点はしつこく言っています」

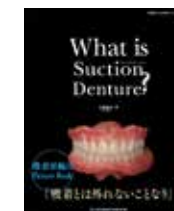
プライドをもって歯周治療を

●歯科衛生士へのエールをお願いします。

「担当制で予防やペリオに取り組むのは、歯科衛生士の真骨頂だと思います。歯科衛生士が産休、育休に入るとき、『お休みの間は他の人が担当しますね』という、『〇〇さんでないと嫌だから、その間は自分でちゃんと磨いています！』という方が何人もいらっしゃいました。歯科衛生士冥利に尽きるお言葉だと思います。歯周病を治すのは歯科衛生士です。やりがいのある重要な仕事に、プライドをもって取り組んでほしいですね」

●今後の抱負をお聞かせください。

「若い先生方の目標になるような歯科医院でありたいと思っています。私がいままで学んできたことのなかで、とくに“吸着デンチャー”の素晴らしさを若い先生方に広めていきたいと考えています」

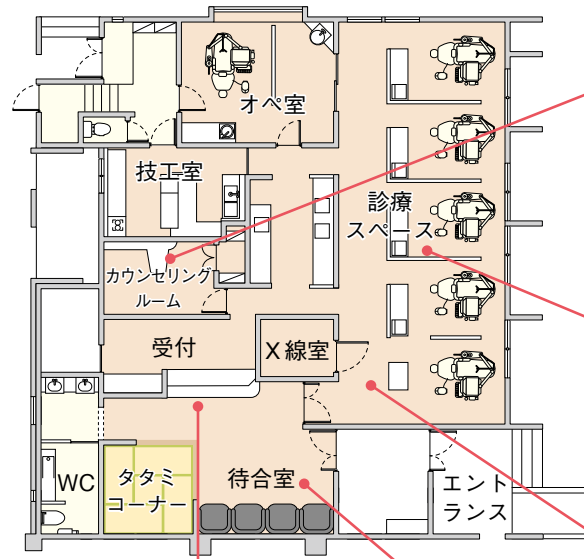


佐藤勝史先生・著

『What is Suction Denture ?

——吸着至極の Picture Book 吸着とは外れないことなり』

弊社より好評発売中



▲カウンセリングルームで、患者さんの訴えを時間をかけて聞き出す



▲診療室の窓から庭の木々が見える



▲落ち着いた色使いの受付



▲待合室の奥にはタタミコーナー。年配の患者さんに喜ばれている



▲診療室は半個室形式

赤塚裕美 (DH歴17年)
 歯科衛生士
 山形県生まれ
 1997年 山形歯科専門学校卒業
 1998年 佐藤歯科医院に勤務
 2007年 日本歯周病学会認定歯科衛生士取得
 趣味: ドライブ、旅行

医療関係に進みたいという思いがあり、高校の担任から歯科衛生士という職種があると聞いたのが、この道に進むきっかけでした。

開業当時からメンテナンスを継続している患者さんは17年になります。長期にわたり患者さんとよい関係であるためには、技術だけでは足りないと思わさせていただきました。

ブラッシングに興味をもたずに生活されていた方が、私のブラッシング指導によって意識を高め、目に見えてきれいになっていく経過がみられたときには、歯科衛生士として喜びを感じました。

患者さんに対しては、目を見て説明することを心がけています。患者さんの問いかけや訴えにしっかり返事と復唱することが、信頼関係を築くうえで大切なことだと思っています。

2007年に日本歯周病学会認定歯科衛生士の資格を取得しましたので、その名に恥じないように頑張りたいと思います。

今後の課題としては、インプラントのメンテナンスの患者さんに炎症や腫れがある場合に、院長を頼ってしまうので、しっかり対応できるように勉強していきたいと思っています。

榎美子 (DH歴21年)
 歯科衛生士
 山形県生まれ
 1993年 仙台歯科衛生士専門学校卒業
 2003年 佐藤歯科医院に勤務
 2013年 日本顎咬合学会認定歯科衛生士取得
 趣味: 野球観戦

医療系の職業に就きたいと考えていて、進路指導の先生から歯科衛生士という職業を教えてください、興味をもちました。

普段の診療では、歯周病の患者さんを多く扱っていますが、患者さんの動機づけ、モチベーションを上げるのに苦労することがあります。毎回、口腔内写真を見せながら、「ブラッシングでここまで変わるのでよ」とご自身で感じてもらって、ブラッシン

柿崎杏奈 (DH歴9年)
 歯科衛生士
 山形県生まれ
 2005年 山形歯科専門学校卒業
 2005年 佐藤歯科医院に勤務
 2013年 日本顎咬合学会認定歯科衛生士取得
 趣味: 旅行、ドライブ

母が看護師で、小さいときから医療系の仕事に就きたいと思っていましたが、歯科衛生士専門学校を見学して、この仕事に興味をもちました。地元で就職先を探していたところに当院を見学させてもらい、担当制であることとスタッフの方々が優しいことが決め手となり、就職させていただきました。

橋本明美 (DH歴9年)
 歯科衛生士
 山形県生まれ
 2005年 山形歯科専門学校卒業
 2012年 佐藤歯科医院に勤務
 趣味: ガーディング

短大卒業後、歯科医院の受付として就職しました。アシスタントとして少しずつ患者さんと接してやりがいを感じ、歯科衛生士の先輩が仕事をする姿を見て、自分も歯科衛生士になりたいと思い、働きながら学校に通いました。

仕事をしていて難しいと感じるのは、先生のアシスタントをするとき、患者さんの痛みや訴えを先生に正確に伝えることです。また、歯周病に罹患した患者さんのなかにはセルフケアを頑張ってください方、そうでない方とさまざまなので、一人ひとりに合った指導をするのはたいへんだと感じます。

グの大切さを理解していただくようにしています。歯科衛生士としてやりがいを感じるのは、メンテナンスやPMTCの後に「すっきりした」「気持ちよかった」と言ってもらえるときですね。また、重度の歯周病を治せたときにも、仕事の達成感を感じます。

患者さんとの対応では、目を見て挨拶をして、話をよく聞くことを意識しています。また、歯科以外の話題についてメモしておいて、次回来院の際の話題にするなどして、リラックスした状態で受診していただけるよう工夫しています。

院長からは、必ず返事と復唱をして、伝え間違いがないようにと言われていました。

現在、メンテナンスの患者さんをたくさん受けていますので、今後とも末長く来院してもらるようにコミュニケーションを密にとり、信頼される歯科衛生士でありたいと思います。

自分よりもかなり年上の方もたくさん来院されるので、どうやって話題作りをしたらよいのか、どうしたら年下の私を信頼してくれるか、心を開いてくれるかなど、悩み考えました。当院のユニットは半個室なので、先輩たちの話し方を聞いて学ばせてもらいました。

患者さんから、「あなたの顔を思い出して家で歯磨きしています」「ずっと通うからずっといてね」と言われることがあり、うれしく、やりがいを感じます。

院長は、いつ休んでいるのかと心配になるくらいタフで勉強家です。

今後とも知識や技術を磨き、長期に通っていただけるように、患者さん信頼に応えられるような対応を身につけていければと思います。

歯磨きの指導をして、「歯磨きが楽しくなってきたよ」とおっしゃっていただいたり、私のアドバイスでぶよぶよに腫れていた歯肉が改善されたり、患者さんが笑顔で話しかけてくださるときなどは、とてもうれしいですし、歯科衛生士の仕事をしてよかったと感じます。

患者さんをお迎えするときは笑顔で「お変わりないですか」とおかがいして、お話をよく聞くように心がけています。

院長は、聖徳太子のような方だと思います。忙しい診療中に1度に複数のスタッフが助言を求めにいても、冷静に的確なアドバイスをしてくれます。

今後の目標としては、担当する患者さんに、これからも心を込めた対応と治療を心がけていきたいです。

DHstyle編集部では、当コーナーで取り上げてほしい歯科医院を募集しております。自薦他薦は問いませんので、E-mail (dhstyle@dental-diamond.co.jp) までお知らせください。